

大和市生活支援・介護予防サービス第1層協議体 平成30年度 第1回会議議事録

日 時：平成31年1月23日（水）午前9時30分～午前11時10分

場 所：大和市保健福祉センター501会議室

出席者：委員9名（欠席なし） 支援組織3名（欠席なし） 第2層代表者5名（欠席なし）
事務局

配布資料

- ・ 大和市生活支援・介護予防サービス第1層協議体 平成30年度 第1回会議次第
 - ・ 資料 1 第2層協議体 各地域の状況
- その他 各協議体 ちらし等
神奈川県・大和市共催講座 ちらし

会議次第

1. 開 会
2. 委員等の紹介
3. 会長あいさつ
4. 議 題
各地域第2層の協議体の設置経過と今後について
5. その他
6. 閉 会

会議内容

1. 開会
2. 委員の変更及び異動に伴う事務局職員の紹介
3. 会長あいさつ
4. 議題

会 長： 議事に入る前に、協議体の活動は、今回で3回目だと記憶している。また、研究会が過去に6回ほど開催されているが、協議体とは何か。第1層、第2層とは何か。初めての方もいられるので概要説明をお願いしたい。

事 務 局： 高齢化が進む中で、今まで地域で暮らしてきた方がそのまま住み続けられる地域づくりが必要となっていくが、その一つの取り組みとして始まったものである。本市では、これまで様々な組織が地域で活動してきている。こうした組織が、それぞれの組織ごとに活動してきた部分を活かしつつ、更に横に連携しながら、年をとってもそのままそこに住み続けられる地域づくりについて考え、話し合う場として「協議体」の設置を進めることが国から示された。

「協議体」の作り方は、各自治体でいろいろな考え方があり。本市では、研究会を設けて、どのように進めていくのかを考えた結果、地域の考え方、地域の担い手、取り組みを大切にしていくこと、地区割については、市内には生活支援の

圏域として、民児協及び地区社協のエリアが 11 あり、自治連の理事ブロックが 15 であることから、基本的な考え方として、11～15 の地域に分けてこの取り組みを進めていこうということになった。

協議体の組織については、地域ごとに様々な歴史があることから、特定の組織に主になってもらうことは想定していない。基本的な構成団体としては、自治会、地区社協、民児協、老人会、介護予防サポーターであり、また、可能な限り参加いただく団体としては、シルバー人材センター、生活協同組合、NPO 法人、その他地域で活動している組織や事業者となっている。そして、協議体を支援する組織として市役所、市社協ボランティアセンター、地域包括支援センターが協議体と一緒に進めていく。ニーズと支援を繋いだり、人材の掘り起こしなどを行ったりする生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）についても地域をよく知っている方に担っていただくことがふさわしいということになった。

現在、5 地域で協議体が設立され、その他勉強会を開催している地域もあるが、まだ進んでいない地域もあるので、今後に向けて皆様のご意見を伺い進めていきたい。

協議体についての説明は、これまで各団体の会長、副会長など役職につかれた方々を中心に行ってきたが、実際に地域で活動している方々からこの制度について聞いていないという声も聞かれるので、今後、単位老人クラブ、単位自治会等、さらに網の目を細かくして説明を行っていきたいと考えている。

地域の人々を結び付けたり、地域資源を見つけていくことは容易ではない。地域で活動いただける新たな人材を発掘する取り組みとして、県と共同で 1 月から「地域支え合い講座」を実施する。

会長： 今まで第 2 層協議体の設置状況については、事務局からの報告で把握してきたが、本日は実際に地域で活動をされている、つきみ野地区、下鶴間地区、南林間地区、中央地区、福田北地区の各協議体代表者の皆様にお越しいただいたので、実際に立ち上げてみて分かったことやご苦勞されたこと、今後の協議体づくりへの提言などについてお伺いしたい。

最初に事務局から各地域の状況について説明を受けた後、実際に協議体の立ち上げに関わった皆様からお話をいただく。事務局から説明をお願いします。

◆資料 1（第 2 層協議体 各地域の状況）に沿って、6 つの地域の活動状況等について事務局から説明。

会長： それでは、実際に協議体を立ち上げられました皆様から実際の苦勞話をお聞きしたい。お手元に、各協議体が発行したリーフレット等をご用意したので、併せてご覧いただきたい。なお、質問等があれば各協議体の皆様からお話を伺った後、質疑応答の時間を設けさせていただく。

第 2 層協議体代表者： 我々は、平成 29 年設立だが、28 年頃から自治会、社協、民児協の主なメンバーが集まり、高齢者が増えてきたことに関わる諸問題も出てきて、これを解決するのにどのような組織が担当するかなどについていろいろと協議してきた。行政に相談したところ協議体の制度があるということから制度に則って会を作ろう

ということで、29年4月に拠点を作り活動を始めた。内容は、初めにコーディネーターの募集、選任、次にボランティアの募集を自治会の回覧板を利用して配布した。実際の活動は6月からで、ゴミ出し、空き缶の始末など120名ほどのボランティアが集まり、対応は、各自治会のボランティアが各自治会の困りごとを処理するというシステムを進めている。

現在は、こうしたボランティア活動と健康測定を月2回行っている。我々は、ボランティア活動は有償が良いということで、30分以内300円、1時間500円の金額で、協議体ではなくボランティア個人の報酬としている。当面の課題としては、月、水、金の週3回、10時から15時まで拠点施設を開いているが、これを増やしていくかどうかという問題と利用者の増加で拠点が手狭であるということである。あと、週3回やっている健康マージャンも人気である。

会長： 会長の強力なリーダーシップの下、社協、民児協、自治会等の下部組織がしつかりしていたので早く順調に立ち上がったのではないかという印象を受けた。

第2層協議体代表者： 事務局の説明にあったように、我々も同じくパルシステムの健康チェックを行っていたが、今はやめている。

我々の地区では全世帯7,400のうち、自治会加入世帯5,000世帯を対象にアンケートを取った。自治会等の会合の都度、PRしているが「協議体」ということがまだ理解されていない。アンケートを取って初めて内容などを理解してもらえたことが良かった。また、協議体という名前を付けるとPRしにくい、「会の名称」で出すと覚えてもらいやすく、わかりが早い。そう言った意味でのネーミングが必要である。困り事というのは自治会単位で出てきて、ニーズの違いもあるので、捉え方として自治会が中心ですべきだと思う。そして地区社協、民児協に協力してもらうことで進めた。コーディネーターは、公募ではなくこちらからお願いして決めた。当初、どういうニーズがあるのかを3つの老人会でワークショップを行った上で洗い出し、ニーズを把握した。このニーズを基に、地区内世帯に対して高齢者用調査票65歳以上と一般用調査票を出した。結果として回収率は高齢者用が49.5%、一般用が23.9%であったが、「自治会がこんなことまでしてくれているから年を取っても安心だ」「協力しますよ」という意見が多くあった。地区内には4つの自治会があるが、ニーズは全く違い、同じ括り方ができない。160頁にもなる回答報告書をまとめ、8頁ほどの概要版も作って、これを地域に報告し、また、3層の事業者に対応をしてもらう方策として活用してもらうことを考えている。併せて、調査結果の概要を踏まえて、自治会の中にボランティアを組織し対応する部分と、事業者任せの部分とを今後整理していきたいと考えている。

会長： お話の中にアンケートを取ったら「自治会ってこんなことまでやっているの。」「こんなことをやってる。」と知らしめることが出来たと言うことは、自治会の存続にもかかわる事柄であり、非常に良かったのではないかと思った。

第2層協議体代表者： 我々の地区では十数年前から地域包括支援センターが中心となって、地区のネットワーク会議が年に4回開かれていた。そこは10自治会の代表、ゆめクラブ代表、地区社協、民児協、関連団体など35名ほどの構成員で運営され、地域の問題、

関心事、各自治会の活動情報の共有化を話し合っていた。そこに市から協議体の話があり、協議の結果、目的、課題は異なるがメンバーはほぼ変わらないということで、平成 29 年 4 月からネットワーク会議メンバーの前段にあるリーダー会議メンバーが中心になり準備会を開き 1 年間勉強した。やはり「協議体は何か」「何をするのか」地区社協やネットワーク会議と何が違うのかの理解が非常に難しく揉めたが、昨年 3 月に総会を開き設立した。

初めに「何をするか」「コーディネーターをどうするか」を話し合ったが、まずは「何をするか」のワーキンググループを作ろうということになり、現在、地域アセスメント、会食会、個別支援の 3 つのワーキンググループが出来て進めている。

毎月 1 回第 3 木曜日に役員会、偶数月の第 4 木曜日に定例会を開き活動報告を行っている。個別支援のワーキンググループで買い物支援としてどのような資源があるのか確認するために地域内の商店を回ったが、市の中心部だが個人商店がほとんどない。スーパー等に話や協力をお願いしに行ったが、協議体のことがほとんど知られていない。「協議体？何ですか？」と言われる。個々に説明すると非常に労力と時間がかかる。我々も「広報紙」を作り PR しているが、第 1 層の協議体の役目としても、市域全体に第 2 層協議体があることを PR して市民に認識してもらわないと我々の活動もスムーズにいかないかなと思っている。昨年末に県のコーディネーター研修に参加したが、他の市町村では包括の職員、社協の職員、市の職員がコーディネーターになっており、専任してできる状況にある。私のところの悩みは今、コーディネーターも含めて、全員が何らかの役職を兼ねていて、忙しくてなかなか時間が取れない。そうした中で深く調査、検討を行い、支え合いのシステムが構築できるのかが不安である。そういう面で専任された方が上手く動ける体制があると良いと思う。この第 1 層で第 2 層は地域の実情に合わせたというのは良いが、その中で動ける人材を探すというのはなかなか難しいし、すでにそういう人たちは、いろいろな団体等や活動に関係していて専任ができない。ようやくひとりの元民生委員の方をお願いして拠点に来ていただいている。そういう人を増やさないと協議体の運営が難しい。いろいろと協議体の活動を知ってもらうため、PR に力を入れていかないといけないと考えている。

会 長： 地区にネットワーク会議があり、リーダー会議があり、活動してきた下地がしっかりしていたという感想を持った。

第 2 層協議体代表者： 我々のところは平成 30 年 3 月に発足したが、ここにたどり着くまではやはり難産だった。自治会は自治会の中で、地区社協は地区社協の中で、民児協は民児協の中で各々しっかりと活動をしていた。こうした中で、協議体の話が出てきて平成 28 年の地区社協の総会を借りて、市から協議体の説明を受け、準備会を開くための準備会を自治会、地区社協、民児協各 2 名で会議を先ず始めた。28 年から数回開いた後、準備会にしようということで、要援護者支援会議の際に自治会、地区社協、民児協の 3 団体の合意をとった上で準備会となった。その後数回の準備会を開催し、その他多くの会合を行った結果、平成 30 年 3 月に協議体を発足した。

特色として、協議体のメンバーがかなり多い。自治会、地区社協、民児協、ゆめクラブ、地域包括、地域福祉事業所、病院、郵便局などで構成している。今は、どういう形で、どう進めていくか、暗中模索の状況である。拠点については、親しみやすい名称を付けた。施設は駅を降りたすぐそばにある。支え合い推進員には3名の方をお願いし活動している。相談事は、協議体の運営会議（月1回）で検証し、今後の活動に反映していくことにしている。今後は、ミニサロンを開いている各団体代表に集まってもらい意見交換をしていくことや地域の中にある資源を改めて確認できるようにゆめクラブの人にも声をかけてスタンプラリーを試してみようと考えている。

我々は、何かあったらそれぞれの組織に繋いでいく、自治会、地区社協、民児協、病院など第3層との関係をコーディネートすることが役目だと考え進めている。

会長： 発足をするまで何度も会議をして難産であったとのことだったが、地域に協議体発足以前から地域の団体が自由に使える立派な会議室があったことが何より強かったと思う。我々と違って会合を持つ都度会場予約をせずに済み、非常にうらやましく思う。

第2層協議体代表者： 我々も準備会は、平成29年5月から協議体をどうしていくかということで自治会、連合自治会、民児協、地区社協等に集ってもらい18回という回数を重ね会議を開いてきた。自治会が12あり多いので、連合自治会長に出してもらった。お陰様で昨年9月に協議体を発足し、11月に拠点を確保した。我々の地区には、周りに大きな商店や駅もなく、商店街もない、坂道の多い地区なので、地域の真ん中に当たる場所に拠点を設けた。11月から今年1月まで拠点整備で時間を使い、主だったことが出来ていないが、今は地域アセスメントを進めている所である。名称が皆様のところと違い、固い名前になっているが、愛称についてみんなで考えていこうということになっている。また、4月以降地域の方々が相談できるように拠点の整備を進めている。

難しいと思っている点では、いかに広報をしていくかということ。世帯数は8,000世帯あり、マンション等いろいろな形態があるのでその辺りの対応をどうしていくか。ボランティア活動について有償、無償とするのか。地区内にはNPO法人や福祉施設が少ないということが分かったので、その辺りのニーズがある場合、どのように対応していくのか。また、コーディネーターの確保、養成をどのようにしていくか。ということである。

会長： みんなで考えてみようということをコンセプトに進めているというお話を伺った。

おはなしにあったように、協議体というのは個人で活動するものではなくて、何か困ったことがあれば協議体につなげて皆様の相談ごとに乗る。そういう考え方ではないか。また、自治会にはお助け隊のような下部組織があり、重たい新聞紙を出したり、買い物や犬の散歩等の活動をしたりしている。協議体はその上に立ったものと個人的に思った。

今、協議体の進め方、その他活動状況に加えて苦勞された様子や課題を伺いま

した。ここで皆様からの質疑応答を受けたいと思う。

委員： 第1層のPRが浸透していないのではないかと発言がありましたが、どうい
うことか。

第2層協議体代表者： 私も不勉強だが、第1層は何をしているのか分からない。大和市としては第2
層協議体を設立するというので、第1層の力の入れ具合が入れ具合をはかられ
るだろうと思うが、第1層も第2層も地域のケアシステムを構築していくとい
うところで見れば、第1層は大和市全体を捉えていく役割なので、具体的な動きが
見えてこない活動を地域はどのように進めるべきか、といった情報を第2層にも
ほしい。うちの会食会、ワーキンググループの中で話し合ったことだが、会食会
を行うことは良いが受け皿がない。一番の問題は、食事の提供について会費を取
るとしても多く取れない。では、資金をどうするのか。そのサポートを市の補助
でできないか。そういったことを第1層で取り上げて協議してもらいたい。第1
回目だが、第1層、第2層との交流、連携を深めていかないと地域の中だけで悩
んでしまう。

委員： これは、事業そのものをもっとPRしてほしいということか。

第2層協議体代表者： それと、協議体を市や商工会議所を含めて、企業や事業所などいろ
んな所にもっと全体的にPRしてほしい。市全体として浸透していくようなことを図
ってもらえれば、我々が訪問した時に「協議体って何か」から話すこともなくなる。

委員： それは肌で感じたことですね。事業そのものがまだ浸透していないのではない
かということ。

委員： 委員はどのように今納得されたのか。

委員： 社協のブロック11の内、稼働が2、開所が3の5団体しかない。残りは1つ
が協議中だが後の5つは何も進んでない。そういうことも含めてPRが足りない
んじゃないか。私もそう思う。行政としてももう少しPRしていかないといいな
い。市全体としてそういうことがいえるのではないか。

委員： 私は、地区社協の側面からいろいろ活動してきたが、地区社協の成り立ちには、
10年以上かかってそれぞれの地区に浸透していったという経過があったことを
よく理解している。

協議体も作っていくということでは、市は、それぞれの地域に任せて、自主性
を持って活動してほしいという思いがあるから見守っているんだと思う。今のご
意見では、市が全体に「作れ」と言っていないから出来ないと言うように聞こえ
た。

委員： 災害時の要援護者の名簿登録とは違い、これには市から補助金が出ている。市
域で考えると活動していない所では、恩恵を受けられない市民がいる。足並みが
2年、3年あるいは5年も6年も温度差が付いていい事業ではないと思う。

委員： 協議体を立ち上げるに当たって、いろいろな工夫をしてきた。お金の問題では
なく、地域にどのように活用していくかである。お金を出しますから皆さんで立
ち上げてください。でいいのかと考える。

委員： 公金が出ているので、温度差があるのが問題であると思う。

委員： 地域性があると感じた。生活支援体制整備事業は公金が出ている。「地域で支

え合いの仕組みを作ってください。」ということで、まさに立ち上げ方や内容、活用に地域性がある。これからいくつかの地域で立ち上がっていかないと、行政から見れば介護保険制度の破綻となれば、重くのしかかってくることになる。地域の困り事となれば自治会など、地域で支え合うことが必要であると感じている。支え合いの体制が出来たとところに公金を出すという本事業の性質上、平等に与えられているものではないと考える。

また、これから立ち上げていく地域と現在活動している地域との交流の場を設けることも良いと思っている。

第2層協議体代表者： 協議体が出来てから1年か2年で、成果物が上がっていない。成果物が上がれば他もついてくると思う。協議体というのがなかなかわからない。わからないものを行政からPRしてもわかるわけがない。どこかの協議体が成果物を出すことで認知度が上がる。出来た協議体で連携を取っていく。協議体が行っていることを行政が「ある協議体が、この様なことを行っている」と言ったPRをしていく。それらが大切である。

委員： 成果物が出てきた段階で、第1層としての仕事が見えると思う。協議体の方々の発表の場を作ったり、フォーラムを開催したりすることが第1層の仕事になってくると思う。

会長： 議長としてまとめてみたい。自治会も自治連も各種団体がいろいろあるが、地域性や温度差は埋めようがないように感じた。恩恵を被らない方が出るということが生じる場合もある。協議体も出来たばかりなのであちこちぶつかりながら、いろいろな問題も含みながら進めていくことが必要と思う。国、県、他市に比べ大和市は進んでいるのではないか。

第2層協議体代表者： 他市は、包括、市、社協が前面に出て主導して作っている。大和市は各地区で考えて作ってくださいということなので、芽が出て核がないとまとまらない。ネットワーク会議があり話す場があったので良かったが、話す場さえ無いところは、協議を進めることが難しい。また、大和市は地区社協の活動が進んでいると思っている。他市ではサロンを作りましょう。個別支援をしましょう。と言っているが、大和市ではすでに地区社協がやっていることで、今から何をするのか。

改善は考えられるが、地区社協が行っていること以上の新たなことの必要性を地域の者が思ってくれるかが疑問である。

第2層協議体代表者： 協議体は、既存の自治会、社協、民児協いろいろ組織があるが、並列に作っていく必要があると思っている。これからの高齢化の問題を考えていくには、協力体制を取って独立を保っていかないといけない。地域性も考えて、社協の力、自治会、民児協の問題を一緒にするとわからなくなる。独立的であるべきである。それから、第1層、2層、3層について確認したい。

事務局： 第1層というのは、市全体を見渡した中での資源の発掘、人材の発掘、進め方などについての審議や、各組織の代表の方に出ていること、行政が単位自治会やゆめクラブに説明に出かける際に橋渡しをしていただく役割を持つ。第2層は、地域の方々が、その地域をどうしていくかの話し合いをしていただく場である。第3層は、目指す地域の為に必要な個々の活動を行う組織である。

- 委員： 私は、地区社協は第3層だと思っている。そして第2層の協議体が立ち上がったので、個別支援で依頼があったときに対応できる組織作りを準備しておかないといけないと認識している。依頼をする支援先として、社協、自治会、ゆめクラブ、NPOなどの第3層にどう繋いでいくのか。第2層の役割を模索している。
- 委員： 社協は第3層ということであった。先ほどの事例紹介でも自治会が主導的に行っているという話があった。私も自治会が主導的にやっているのは第3層だと思うがどうか。
- 第2層協議体代表者： 地域性があると思う。自治会が10～20ある所と3～4か所でまとまる所とは違う。協議体というのは、個々の活動組織とは別組織にしないといけない。第2層協議体を自治会が主導するにしても何も、きちんとした組織ができていれば地区社協なども第3層に入ってくる。そういう組織を作らないと誰が何をしているかわからなくなる。地区、地区によって違って良いと思う。
- 委員： 第2層の役割というのは、第3層になってくれる所に意識付けをしていくこと。その様な事をしていかないと地域の中で支援が出来ない。
- 委員： それが地域アセスメントである。
- 第2層協議体代表者： 第2層は第3層の組織を強化する手伝いをすることも役割かと考える。
- 第2層協議体代表者： 足りないポジションがあれば、第2層が主導して第3層を作らないといけない。そのためには第2層に組織力がないといけない。
- 委員： 第2層の方々から立ち上げの苦労話を聞く機会であったが、第1層の在り方のようなになった。それを整理してもらうことが1つ。それから2つ目は、第2層は繋ぎ役だが、地域では第2層も第3層も垣根がない。相談があれば私がやりましようという時代ではないか。
- 委員： 上草柳地区も29年10月から勉強会ということで準備作業に入った。昨年12月の準備会の中で「上草柳ふれあい協議会」という名称で協議体を作っているところである。
- 委員： 第2層の方々から話を聞いたことは大変参考になった。皆さんの経験が今後生かされないといけないと思う。各団体の長の方と行政との話し合いはあるが、個々には伝わっていないという意見があったように、市民全体に協議体の在り方の理解を進めていく責任もあるので、お互い連携して進めていきたい。
- 会長： 事務局から5つの協議体以外の取り組みについて報告があればお願いします。
- 事務局： 大和市は、地域の方にどう考えていただくかを大切にしながらも、さらに網の目を細かくし、実際に活動している団体への説明や「制度はこういうもの」という趣旨のご理解を得ることに力を入れていかないといけないと考えている。また事務局でも市民の方に協議体というものの理解を得ることに頭を使っていけないと感じた。地域の協議体の皆様には、活動が活発になればなるほど行政も市民にPRできるので、今後の活動もよろしくお願ひしたい。

5. その他

県・市共催の“地域活動入門”地域支え合い講座の紹介

6. 閉会